

厳しかった冬の寒さも和らぎ、そこ此処に新たな生命の息吹が感じられる時節となりました。

野や山の木々も目覚め、立山連峰の雄姿も希望の春の中で光り輝いています。

今日の佳き日に、同窓会副会長 玉井晶夫様 近江美郎様 P T A会長 奥村吉成様 教育振興会長 森啓祐様 国吉中学校長 白江日呂雄様 高岡支援学校長 島崎俊哉様 はじめ、多くのご来賓、保護者の皆様の御臨席の下、このように盛大に、平成二十七年度 富山県立高岡工芸高等学校卒業証書授与式を挙げていただけますことは 卒業生はもちろん、私達教職員、在校生にとりましても誠に光栄であり、大きな喜びであります。御臨席の皆様にお礼申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。皆様のこれまでのご労苦に対し、ここで改めて深く敬意を表しますとともに、本校の教育活動にこれまで深いご理解とご協力をいただきましたことに対しまして心より感謝申し上げます。

そして、ただいま卒業証書を授与しました卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。

皆さんは、長い歴史と伝統のある誇り高き富山県立高岡工芸高等学校という学舎で、それぞれ専門の特色ある教育の中、高い志を持ち、日々努力を重ね、仲間と支え、そして高め合い、充実した高校生活を送ることができました。毎日の授業はもとより、資格検定への挑戦や進学・就職に向けての勉強、運動会や尚美展など様々な学校行事、そして毎日の部活動や各種大会・コンテスト、生徒会活動、地域との交流活動、修学旅行、課題研究やボランティア活動など数え上げればきりがなほほどの多種多彩な活動に取り組んできました。私は卒業生の皆さんとは一年間だけではありませんでしたが、中でも運動会閉会式で皆さんが肩を組み、高らかに歌った校歌の大合唱は一生忘れません。このような皆さんの活動のすべては、高岡工芸高校ならではの素晴らしい文化であり、伝統です。

これらのことに打ち込むことができた卒業生の皆さんは、愛情深く育ててこられた保護者の方々をはじめ、ご家族の皆様、さらには、ご指導いただいた先生方など、皆さんを取り巻く多くの人達のお陰であることをしっかりと心に刻み、「感謝の心」を持って社会への第一歩を踏み出してほしいと思います。

さて、本日は卒業生の皆さんにお話しができる最後の機会となりましたので、今から二つのことを話したいと思います。

まず一つは、私が事あるごとに皆さんにお話しした「挨拶」です。高岡工芸高校生の挨拶がさまざまな人の心に届き、評判がよくなっていることについてはこれまで幾度となくお話ししてきました。人に挨拶をし、そして挨拶が返ってくる。本当に気持ちのよいものです。では、挨拶とは一体どのようなもののでしょうか。改めて考えてみますと、挨拶の「挨」と「拶」という字はそれぞれ「迫る」という意味だそうです。もっと言えば、仏教の禅宗における、いわゆる禅問答では、「挨」が「押す」、「拶」は「迫る」という意味だそうです。つまりは、禅問答で弟子と押し問答をし、お互いの心のありようを押し量るのだと言います。要は、相手に対して「迫る」わけです。ただ、単に相手に「迫る」のではなく、自分の心を開いてそして、相手に迫っていくということ。

つまりは好き嫌いにかかわらず、心を開き相手の存在を認め、また自分も認めてもらうということになるかと思います。この中にも、挨拶が苦手な人もいるでしょう。ただし、今言ったように、「挨拶」は自分が心を開くかどうかの自分の心を映す鏡のようなものです。どうか様々な人に心を開き、自分の可能性を広げるよう、「挨拶」を自分のものとしてください。「挨拶」は自分の心、自分の可能性です。これからも自分の思い、自分の心を込めて「挨拶」してください。

そして、もう一つ皆さんにお話ししたいことがあります。それは、人は「永遠に学び続ける」ということです。

皆さん一人一人は、それぞれ異なった良さを持ってこの世に生を受けています。誰でもその良さを発揮して、世の中の発展に貢献するチャンスはあるのです。ただ、そのためには、まだまだ学ばなければならないことがたくさんあります。

社会に出ると、様々な人と出会い、さらに視野が広がります。その際、自分だけの考えの枠に縛られることなく、自分を問い直し、自分の潜在的な可能性を追求することで、きっと新しい自分を見つけることができるはずです。そのためにも、常に学ぶ姿勢を持ち、既成概念にとらわれない柔軟な発想で自分自身を開拓できるよう、様々なことに挑戦し、学び続けてほしいと思います。

インド独立の父と呼ばれる、マハトマ・ガンジーは、学ぶことについて、次のような言葉を述べています。

「永遠に生きるとして学べ。明日死ぬと生きて生きよ。」という言葉です。皆さんにもこのような心持ちで、これからの人生を歩んでほしいと思います。

卒業生の皆さんには、常に前を向き、心を開いて挨拶を交わし、自分の可能性を広げつつ、永遠に学び続ける人であってほしいと強く切望します。どうか失敗を恐れず、常に前に前に突き進んでください。いつまでも「尚美の精神」を追い続け、「工芸魂」をもって挑戦し続けて下さい。期待しています。

おわりに、本日御臨席賜りました皆様には重ねてお礼申し上げますとともに、この学舎を巣立ちゆく皆さんの前途に、幸多からんことを心から祈念して、式辞といたします。

平成二十八年三月三日

富山県立高岡工芸高等学校 校長 菊池 政則